

# 賞賛行動に対する関係流動性の影響

-多国間比較による検討-

森 玲人

結城 雅樹

賞賛行動は、人間関係において重要な役割を担っている。「対人関係のため」の賞賛行動の役割は、「社会的潤滑油としての役割」や「関係を維持するための社会的戦略」(Sawaguchi & Shibuya, 2014)のような社会的適応機能である。そしてこの社会的適応機能は、Zhang, Yamamoto, & Yuki (2017)で相手への共感の表出(滝浦, 2008)と賞賛者自身の態度を表明する(Delin & Baumeister, 1994)を根拠に「望ましい対人関係の獲得・維持(Ikeda et al., 2014)」としている。その賞賛行動における文化差の研究はこれまでほとんどされてこなかった。本研究ではほとんどされてこなかった中で唯一文化差研究を行なったZhang et al. (2017)の研究の理論を関係流動性の観点から多国間比較により証明する。そして質問紙調査とSNSによる調査を行なった。得られた回答データを統計的に分析した。結果としては公的状況での賞賛行動の量には先行研究に反し有意な差が見られず、逆に先行研究では差がなかった私的状況での賞賛行動の量に有意な地域差が見られた。このように、Zhang et al. (2017)を支持する結果もあったが、支持しない結果が多かった。これは、サンプル数の不足が大きな原因の一つであるものの、関係流動性との媒介分析ですべて有意な結果にはならなかったことから、関係流動性以外の何らかの要因が賞賛行動に影響を与えていることも示唆できる結果となった。本研究の調査のサンプル数が非常に少なく、全体として信頼性の低い結果となった。そのため、今後賞賛行動の文化差研究という研究の進んでいない分野だからこそ追試を行う必要があると考える。